

屋久島の旅 2025.5.17~22

雨が多い屋久島。それでもヤクシマシャクナゲを見るためなら5月しかない。雨を覚悟で計画した。開聞岳を計画に加えていたが、連日の雨天予報とあっては、断念は仕方ない。

参加者：大藤（富）、大藤（博）2名

① 5/17 JR 広島駅 8:20⇒11:04 鹿児島中央駅⇒高速船トッピー 13:20⇒15:10 宮之浦港
15:30⇒屋久島交通バス⇒16:05 白谷雲水峡⇒18:00 白谷山荘（泊）



白谷雲水峡管理事務所（バス終点・駐車場）



広い東屋で身支度出来る

バスが高度を上げるに従い、雲が取れて青空に代わった。虹が下に見えるのは久しぶりの景色。雨の中を下山して来た登山者で、ごった返した。濡れた装備を着替えるので大変だ。

私達は、雨上がりの中を登って行くので気分爽快だ。ツアーで送迎のワンボックスカーが頻繁に上がって来る。奥の駐車場は殆どがレンタカーだ。入山料（泊）¥2000 は、宮之浦港の屋久島環境文化村センターで受け付けていると説明を受ける。帰りに支払うことにする。



青空に代わった



アカシデ



16:22 発



二代杉の説明



二代杉

歩き始めると、すぐに屋久杉が現れる。想像を超える巨木だ。苔むしていて威厳がある。登山道は整備されていて歩き易い。溪流沿いの屋久杉探査ルートは近年の豪雨に困り、崩壊したところが有るので通行禁止になっている。



くぐり杉



人が通過できる



17:54 シカの宿



18:00 白谷山荘



小屋はコンクリート建築で中は広く、古いが綺麗に整頓されている。部屋の外に水が引いてあるので、水場まで行く必要はない。屋内に調理台も有る。奥に6畳くらいの独立した部屋が二つあり、平床と二段寝所となっている。50名程度は宿泊できる。小屋全体を二人で独占した。トイレが屋内にあるので臭いを心配したが、窓（網戸）を開ければ問題なかった。



二段寝所（上下各4人）



雨で濡れたものが多い（細引きが張ってある）



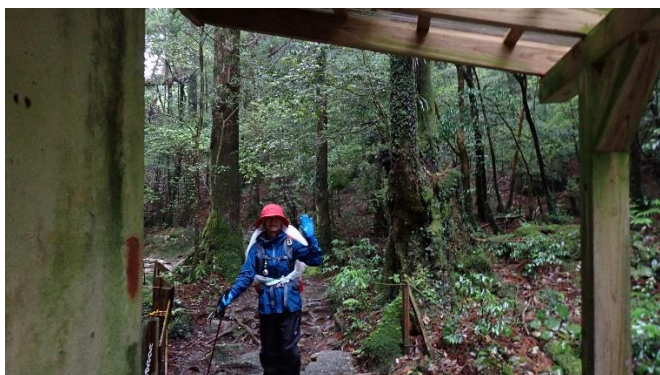
使用した紙は、右の大きなパイプに投棄

小屋内は4灯のLED照明が有り、太陽光発電蓄電池が電源になっている。

トイレ内も自動で照明が点灯する。（男性側は故障中）

白谷山荘は、白谷雲水峡から1時間程度の所なので宿泊者は少ないようだ。私たちのように遠方からやって来る登山者にとっては便利な小屋になる。雨天の中、休憩所として有効なので幾つかのグループが、トイレに立ち寄る。夜間は雨と風と雷（光）の音だけの空間になった。

② 5/18 白谷山荘 7:15⇒8:03 辻峠⇒9:16 楠川分岐⇒11:00 大株歩道入口⇒13:44 縄文杉⇒14:15 高塚小屋



小屋のテラス（庇付き）が雨天時は助かる



七本杉



幹の太さが尋常ではない。



背中に雨が流れ込むのを防ぐ



七本杉、武家杉、公家杉、かみなりおんじ、屋久杉に感嘆しながら辻峠に至る。

8:03 辻峠

此処から太鼓岩周回ルートに分ける。雨天で展望が効かなくても数組のツアーがやって来た。



辻峠から楠川分岐まで下降する。登山道は昨夜来の雨で各所がプール状態に。



楠川分岐に下降した分岐点

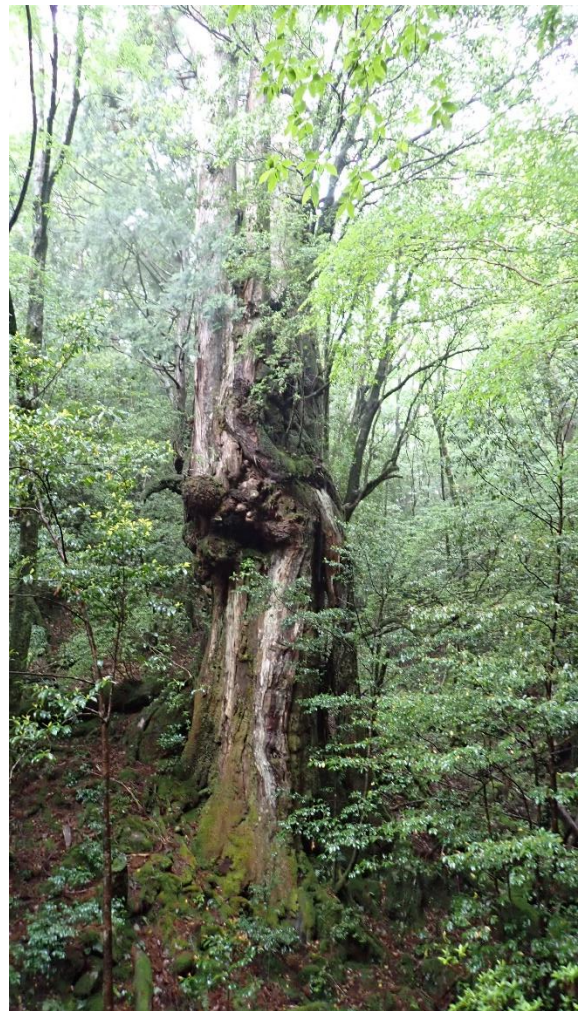
荒川ルートへの案内表示

荒川ルートに合流すると、軌道歩きになる。道が広く歩き易い。雨で滑るの注意して！



ひたすら軌道を歩く。まだ現役の線路だ。

白川雲水峡からの登山者は少ない。ツアーの殆どは荒川登山口から入って来る。昨日からの雷雨でバスが運行しなかった為、出会う登山者はマイカー組だけで静かな軌道歩きになった。下山してきたガイドが、明日はもっと天気が荒れると言う。私の予測と反している。インターネットが通じないので気象情報は同条件だ。あまり信用はしない。



仁王杉は憤怒の表情に見える



10:30 仁王杉



軌道の終点は立派なトイレが有る。

大株歩道からは登山道になる。翁杉（現在は基礎部だけが残存）を過ぎて、ウイルソン株に至る。



山中に設置してあるトイレブース



ウイルソン株の内部



広い空洞になっている



ウイルソン株の空洞入口にて



ヒメシャラの巨木



こんな巨木は見たことがない。風格がある！



大王杉は斜面下から立ち上がっているので、株元の幹回りは巨大だ。



夫婦杉は両方の枝が繋がっている（手を繋いでいる）



登山道沿いに立ち上がっている屋久杉に直接触れる事が出来る。(名は無い)



13:55 縄文杉

有名な縄文杉までやって来た。皆がこの杉を目指してやって来る。太古より生きて来て来た風格は他を圧倒する。殆どのツアーは此处までが日帰りハイキングになる。



高塚小屋



小屋の外にあるトイレ（洋式便座）

14:15 高塚小屋に入った。計画は新高塚小屋までだったが、翌日の行動を考え宮之浦岳以降の登山道が、雨で水路状になっていることが想定されたこと。淀川小屋までの行程が長く歩行に時間が掛かることを考慮して、高塚小屋までとして翌日下山することにした。

帰りのフェリーで、宮之浦岳～淀川ルートを下山した人に出会い、下山は水路になった登山道を歩けなかったのが、苦労したことを聞いた。（判断は間違いではなかった。）



高塚小屋は2階建て。内部はきれいに整頓され

ている。夜中にヒメネズミ（ファミリー）が走り回るので、テントを張って寝た。小屋は独占。ザック、装備一式、食料の殆どを天井から吊るした。（ネズミとの知恵比べになった。）

避難小屋なので水場は有るだろうと安易に思っていたが、水場が無い。しかし、屋久島の事稜線でも川が流れている島だ。小屋前の谷を少し下ると、斜面から湧き出ている小さな水流を見つけた。雨がかなり降ったので表層の水かも知れなかったが、澄み切っていた。

かまわず飲料水とした。途中登山道沿いに水場は多いので、水の補給は安心だ。

何と言っても、屋久島は雨対策が重要。濡れた衣類を一夜で乾燥させることが必須になる。ガスバーナーを寝るまで燃やして（細火で）いればかなり乾く。ガスの余分が必要だろう。

小屋の前にヤクシマシャクナゲが咲いていた。稜線は未だ蕾が多かったとのこと。



今回の目的だった。

③ 5/19 高塚小屋 7:04⇒9:28 大株歩道入口⇒10:53 バイオトイレ⇒11:07 楠川分岐⇒
12:34 辻峠⇒13:08 苔むす森（アニメもののけ姫の舞台）⇒13:15 七本杉⇒13:30
白谷山荘（泊）



高塚小屋前の広場（テントスペースが有る）

7:04 発

ガスに包まれて、霧雨模様ながら風も無く《天气が荒れるとのガイド予想は外れた》穏やかな朝を迎えた。白谷山荘に泊まる予定でゆっくりと遊びながら下降した。



大王杉の上部の枝ぶり

7:53 大王杉テラスにて

往復ルートなので、下りは速い。次第にガスは晴れて空は明るくなった。



8:47 ウイルソン株の周辺は登山者で賑やか。

ツアーのグループが10パーティー位、続々と上がって来る。外国人グループが多い。日本人の若者グループも多い。殆どが軽装で日帰りだ。縦走組の登山者だけには挨拶を交わし情報を提供した。



チャボシライトソウ



オオゴカヨウオウレン（早春の花）



ヤクシマミヤマスミレ



マムシグサ



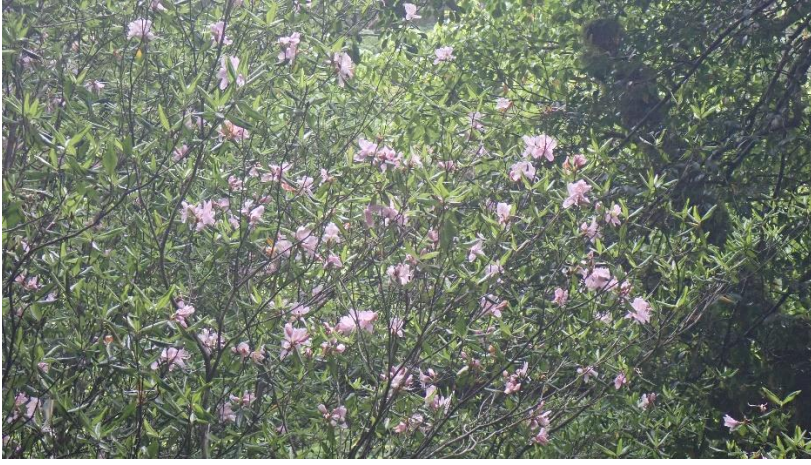
11:02 バイオトイレ



すぐ傍にある水場（水量豊富）



11:07 楠川分岐 此处で軌道と別れて、登山道を辻峠へと登って行く
 昨日、この登山道は水が溢れてプールになっていたが、すっかり回復していた。
 12:34 辻峠着 辻峠を越えて楠川分岐に向かう外国人グループが多いのに驚く。
 何処まで行く計画なのか？ 通過時刻が遅過ぎる。心配しても仕方がないが・・・・。
 辻峠では、太鼓岩周回ハイキングの人が多く、賑わっていた。



サクラツツジ



13:15 七本杉



13:30 白谷山荘帰着。前回泊まった部屋には、天井に掌ぐらいのアシダカグモが張り付いていて動かない。クモが苦手の大藤としては恐怖しかない。あまりに大きいのだ！！隣の平床の部屋を使うことにした。今日も他に宿泊者は無く、テントを張って寝た。小屋に早く着いたので、時間つぶしに困った。大藤（富）は野鳥観察に（双眼鏡を持って）、大藤は荷物の整理と翌日からの行動を考えた。基本計画は有るが、旅は変更が付いて回る。宿の予約日程が決まっているので、下山するわけにいかない。下山すれば余分の金が掛かる。

④ 5/20 白谷山荘 7:00⇒8:25 白谷雲水峡 9:00⇒9:35 宮之浦港⇒レンタカー10:50⇒12:27 湯泊温泉⇒12:56 栗生海水浴場（メヒルギ北限）⇒13:17 大川の滝⇒14:40 シャクナゲ園⇒15:52 原の益救神社⇒16:10 民宿とんとん

朝一番のバスで白谷雲水峡を後にして宮之浦港へ。地元の人にレンタカー店を聞いてトヨタレンタに行ったが、予約で満車とのこと。土産物店でレンタカーを営業していると教えられ、上手く借りられた。軽車両3日間レンタル¥21366 自由に移動できることを考えれば安いと思う。民宿は16:00 チェックインなので途中寄り道しながら大川の滝まで足を延ばすことにした。



さすが南国バナナが実っている



湯泊温泉 入浴¥300



シート掛けしてあり男女に分けてある

尾之間温泉にも立ち寄った。古い温泉で歴史がある。場所確認だけにした。

平内海中温泉は干潮の時だけ入浴できる温泉だ。通過して湯泊温泉へ。湯泊温泉は海岸まで下りて行き、駐車場が有る。平日の朝に拘わらず数名の入浴者が有った。湯舟にシートの小屋掛けがしてあり、海に向けて解放されている。男性が一人入っていた。

栗生集落はバスの終点になっている。そこから海岸に進むと海水浴場が有り、砂浜の一部に

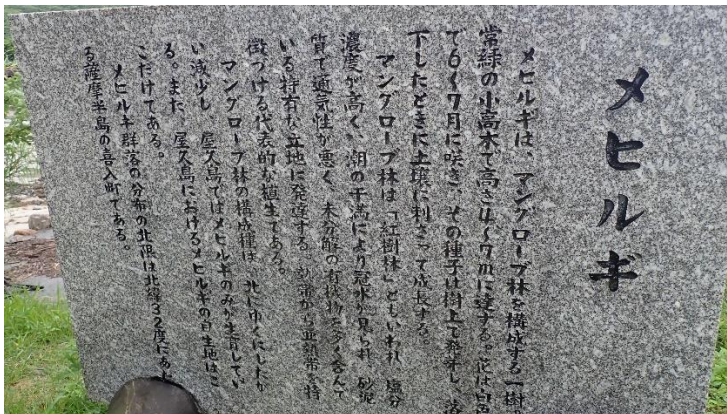
メヒルギの群生地がある。九州南部が北限になり、屋久島では此处だけで植生している。2016 堀内氏と来た時より、群生がかなり後退していた。環境悪化の影響か？



12:56 メヒルギの群生



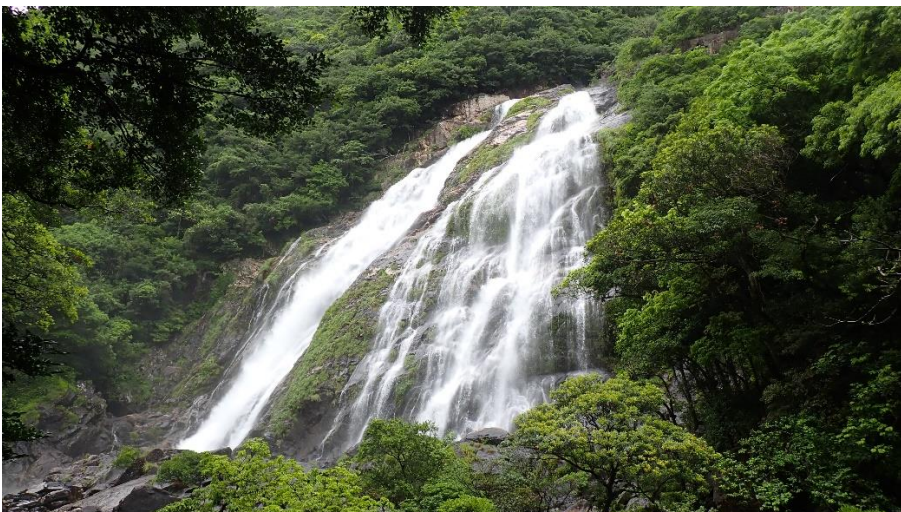
種が落ちて砂に刺さり、芽が出る



グンバイヒルガオの群生



13:17 大川（おおこ）の滝



豪快に流れ落ちる滝

栗生集落に戻り、栗生歩道に繋がる林道を入ると、《シャクナゲの森公園》が有るとの情報で行って見る。臨時駐車場まで進んだが、道がよく判らず工事現場が有る林道を20分程度登ると監督がいたので道を聞くと、全く方向違いを歩いて来たことが判る。丁度2トントラックが戻るところで、乗せてあげるといふ。運転手がとても良い人で、わざわざ駐車場まで乗せてくれた。



シャクナゲの花は既に終わっていた。



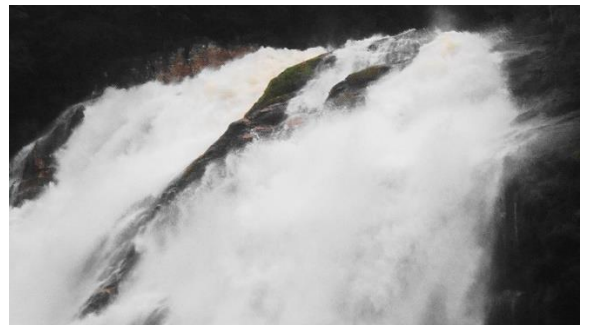
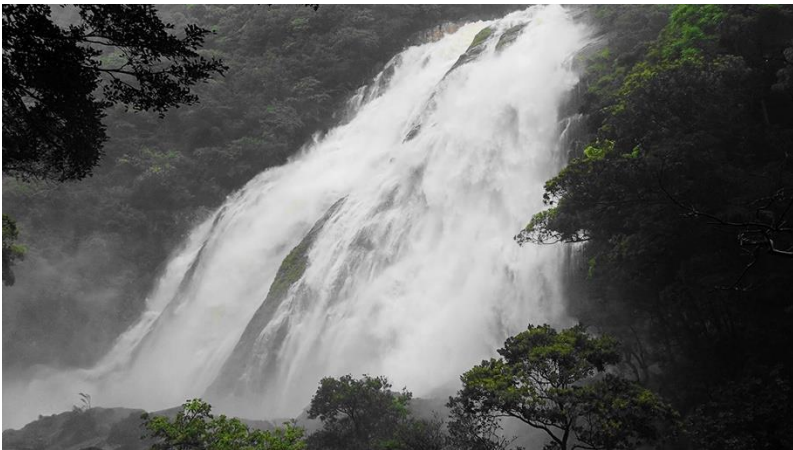
公園は古いが、よく整備されていた。



3mは有るシダ・・・恐竜時代を思わせる。 ヤクシカが捕獲されていた。住民にとっては害獣

帰りに原の、益救神社に寄った。雰囲気のある立派な神社で隠れたホットスポットだと思う。16:00 丁度ぐらいに、民宿《とんとん》に到着。すぐ風呂に湯を入れてくれたので入浴。洗濯機と乾燥機（有料）が有るので濡れた衣類の洗濯が出来た。2016 堀内氏と泊まった時とは少し様子が違って、食卓が掘りごたつ式ではなく、机と椅子になっていた。ご主人が食事を運んできて、御品書きを説明してくれる。静かでゆったりとした距離感は心地良い。杉材で床や柱が出来ていて、壁は漆喰が塗ってある。天井が高いため開放感がある。食事中、小さな音でBGMが流れて邪魔にならない程度。接遇してくれる女性が、良い距離を保ってくれて、必要最小限の会話で済ませる。隠れ宿のような存在なのだろう。

⑤ 5/21 民宿 8:30⇒9:30 大川の滝⇒10:00 中間ガジュマル⇒10:55 千尋の滝⇒14:34
屋久杉自然館⇒屋久島世界遺産センター⇒16:40 民宿とんとん



夜間激しい雷雨が長く続いた。かなりの雨が降ったので再び大川の滝を見に行った。
すごいことになっていた。滝が大荒れに怒っていた。遊歩道にも水流が押し寄せていた。
地元の人が今年2回目だと言って見に来ていた。この様に荒れた滝はめったに見ることが無い
と言う。わざわざ見に行く私達も異色人だろう。帰りに中間のガジュマルを見に寄った。
NHK 朝ドラにも出たと言う。妖気が漂う樹形だった。





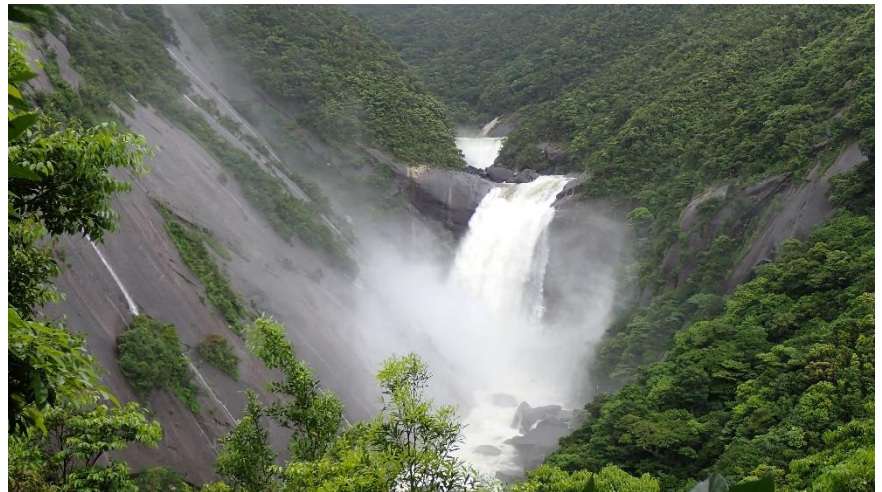
ガジュマル

川の両岸にガジュマルの大木が並んでいる。異様な雰囲気漂う。
マイクロバスでツアー客が来ていたが、何を思っただろうか？やはり観光スポットになるのか？
温泉に入って美味しいものを食べて、屋久杉を見れば観光ツアーは成立だろう。



10:55 千尋の滝展望台（センピロの滝）

狭い林道（離合注意）を上がっていくと、モッチョム岳登山口にもなっている展望台に着く。広い駐車場と整備された休憩所・トイレが有る。遊歩道を進むと千尋の滝を展望できるところに出る。更に遊歩道が有るが、崩壊しているため立ち入り禁止だ。第2展望台に行くと海岸に続く町が眼下に見えた。屋久島が島であることがよく判る。海岸線が丸くカーブしていく。



千尋の滝は幅が広く雄大な滝だ。雨上がりの豊かな水量が豪快に落ちている。



登山計画に含まれていたモッチョム岳登山口

ヤクシマアジサイ

雨天が続くので早くからモッチョム岳登頂はあきらめた。外人カップルが半パンの軽装で登って行ったが、大丈夫だろうか？富士山を半パン、スニーカーで登る人たちだ。。。。。



14:34 屋久杉資料館



屋久杉土埋木の展示は迫力がある。

屋久杉を切り出して、島民たちの生活の糧になっていた歴史展示は興味深かった。



環境省関連の施設が並び、スタンプラリーが出来るようになっている。
 此処は荒川登山口へのバス停留所が有り、多くの登山者で賑わうところ。
 ゆっくりし過ぎて、民宿への帰りは 16:30 頃になった。

⑥ 5/22 民宿 8:30⇒8:40 トローキの滝⇒永田方面ドライブ⇒10:45 益救神社⇒レンタカー⇒
 フェリー 213:30⇒17:50 鹿児島港⇒JR 鹿児島中央駅 18:41⇒21:24 広島



トローキの滝から見るモッチョム岳



トローキの滝

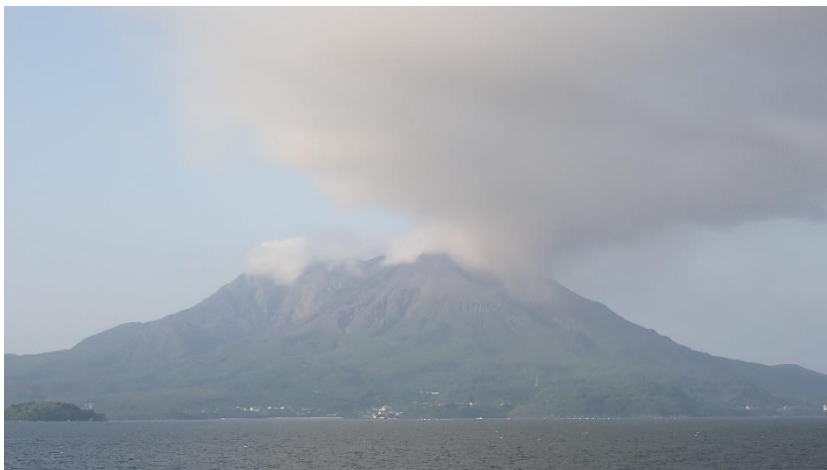




ホットスポットで有名な、益救神社・・・閑散としていた



フェリー2 船内はゆったりと豪華



連日桜島の噴火が続いていて、噴煙が遠くまで広がっていた。タクシーの運転手は車の掃除が大変だと言っていた。鹿児島市内の緑地帯には樹木にデンドロビウム（ラン）が着床させてあり、美しい花が咲いていた。雨天覚悟の旅で、目標達成には程遠い登山になったが、また屋久島への旅を楽しみに・・・。

安佐岳友クラブ 大藤